

増毛山道の再生完了

江戸末期開削有志が8年がかり

【増毛、石狩】江戸末期に開かれた増毛山道(留萌管内増毛町別対―石狩市浜益区幌間、27キロ)の再生作業が16日完了し、約160年前に開かれた山道がよみがえった。2008年に有志らが道路沿いのササ刈りを始め、約8年後のこの日、

最後に残っていた10段を切り開いた。

増毛山道は北方警備に当たる兵員の輸送路として、江戸幕府の命令で増毛の豪商・伊達林右衛門が1857年(安政4年)に私費で開削した。明治期には貴重な陸路として活用された

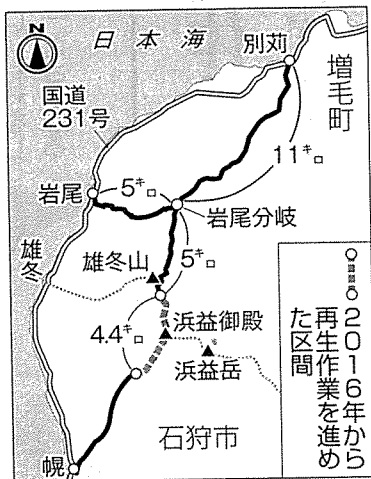
が、昭和20年代には往来がほぼ途絶え、草木が生い茂って通行不能になっていた。

増毛山道は北方警備に当たる兵員の輸送路として、江戸幕府の命令で増毛の豪商・伊達林右衛門が1857年(安政4年)に私費で開削した。明治期には貴重な陸路として活用された

山道には、かつて一級国道だったことを証明する1等水準点の標石や、郵便物の中継に使われた武好駅通跡などがある。留萌市で測量会社を経営する小杉忠利さん(76)ら山道再生を志す有志が、08年に「増毛山道の会」を結成。航空写真や測量データを頼りに留萌振興局とともにササ刈りをしていた。

10年に別対―岩尾分岐間の約11キロ、14年には岩尾分岐―雄冬山山頂付近間の約5キロが開通。16年からは歩行可能な部分を除いた雄冬山山頂付近から石狩市浜益区幌方面への区間4・4キロの作業を進めてきた。

で残るササ刈りを行い、喜びの対面を果たした。伊達林右衛門の子孫で増毛山道の会会長の伊達東さん(82)は、作業を終えた会員らを笑顔でねぎらった。「皆さんの協力で、先祖の偉業の再生を実現できたことに感謝したい」と感無量の表情だった。



増毛山道の全線開通へ最後のササ刈りを行う増毛山道の会の渡辺千秋副会長